町の財政状況

昭和45年度の決算

昭和四十五年度の一般会計及び特別会計は五月三十一日をもって出納を閉鎖し、決算の調整を行った結果、その概要は次のとおりであります。尚、今回は紙面の都合上、内容を簡約して述べてありますので不明瞭な点もあると思われますが、もし御希望の方はいつでも役場でその内容を見ることができます。

一、一般会計

積極的な事業投資

建設事業に二億円余り

昭和四十五年度ほ当初予算四億八百六十六万円の規模であったが、その後財政需要の増加などもあって、最終予算は五億二千百三十一万七千円となりました。これに対し、収支決算の規模は才入総額で五億一千五百十三万五千円で前年度（四十四年度、四億七千七百四十三万二千円）に比べ、八パーセント増、才出で四億八千三百二十二万二千円で（四十四年度、四億四千百二十五万四千円）で九パーセント増となっております。

2図はここ数年の財政規模の推移を表わしたものですがこのグラフからも年々決算規模が増大していく様子をうかがい知ることができます。このように才入、才出ともに大巾な伸びを示している背景には積極的に行った公共事業投資の増と人件費等の増が主な原因となっています。

才　入

昭和四十五年度才入の決算額は五億一千五百十三万五千円です。この主なものは、地方交付税一億三千九百七十九万九千円（構成比二十七・一パーセント）をはじめとして町税一億一千四百一万三千円（二十二・一パーセント）国県支出金六千五百九十六万一千円（十二・九パーセント）財産収入六千二百二十万七千円（十二・一パーセント）が主なものです。前年度に比べ著しく増加しているものに、広域市町村圏、或いは、組合立消防組合加入等に伴う、地方交付税が挙げられます。また町税等も順調な伸びを示しております。

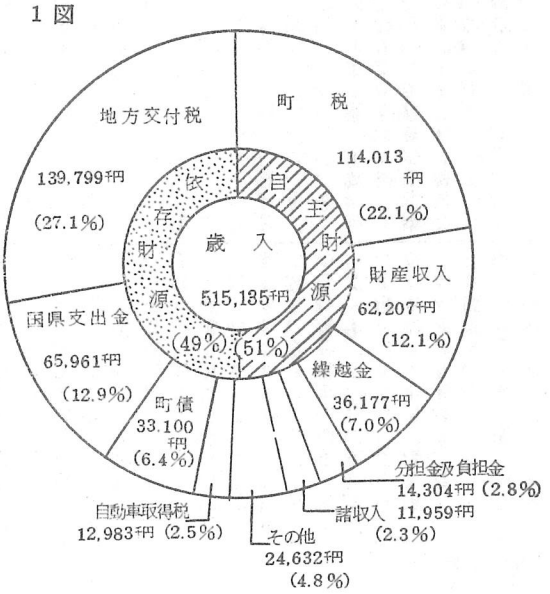
税負担の状況

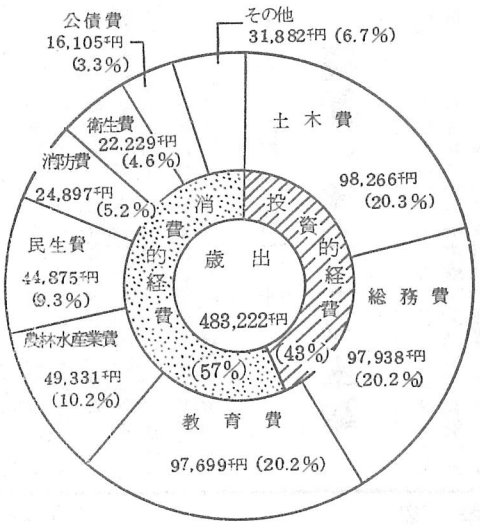
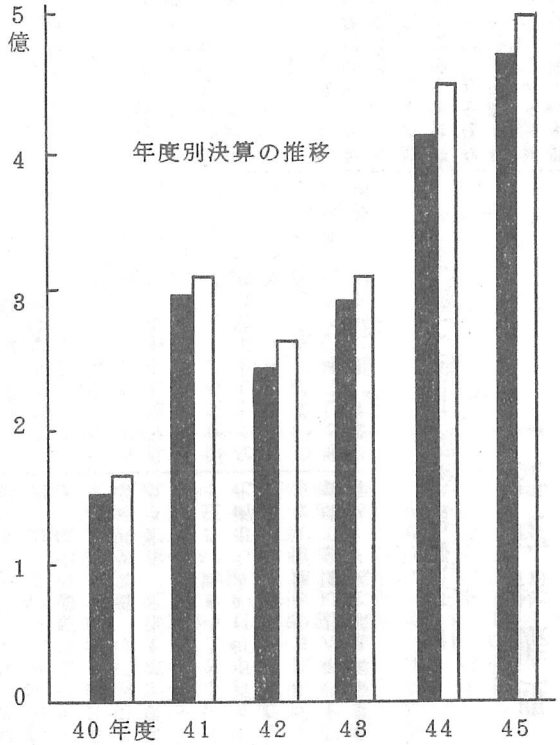
町財政のうえで比重が高く町民の皆さんに負担していただいている税負担の状況は3図のとおりです。住民一人当りの税負担は一万二千六百八十二円、また一世帯当りでみると五万四千八百三十四円の税負担となっております。（　）は昭和四十四年度

一般会計

歳入決算高	515,135
歳出決算高	483,222
差引残高	31,913

1図





2図